

- 問1 8世紀に編纂された「風土記」の内容や目的について述べた文として、最も適切なものはどれか選びなさい。(2017年 千葉県公立入試 類似)
- 中央政府が地方の実態を把握するため、国ごとに郷土の地理や地名の由来、伝承などをまとめさせた。
 - 天皇による統治の正当性を示すため、神話から続く国家の成り立ちを年代順に記録した。
 - 仏教による国家の安定を願って、全国に建立された国分寺や国分尼寺の由来を詳しく記した。
 - 租・庸・調などの税を確実に徴収するため、農民の戸籍や口分田の面積を地方ごとに記録した。
- 問2 743年に発布された、自ら新しく開墾した土地を期限なく永代にわたって自分のものにできるとした法律を何とといいますか。(2024年 神奈川県公立入試 類似)
- 墾田永年私財法
 - 三世一身の法
 - 班田収授法
 - 地租改正法
- 問3 奈良時代、日本では中国の王朝でつくられた貨幣にならい、円形で中央に正方形の穴が開き、表面に文字が刻まれた形式の貨幣が鋳造されました。この貨幣のモデルとなり、当時の日本が政治や文化の手本とした中国の王朝を選びなさい。(2017年 三重公立入試 類似)
- 唐
 - 宋
 - 元
 - 明
- 問4 663年の白村江の戦いで敗れた後、大和政権は大宰府を守るためにその周辺の防衛を強化しました。この時、大宰府の北側に築かれた、巨大な土塁と堀を持つ防衛施設を何と呼びますか。(2017年 広島公立入試 類似)
- 水城(みづき)
 - 多賀城(たがじょう)
 - 鴻臚館(こうろかん)
 - 吉野ヶ里(よしのがり)
- 問5 7世紀後半から奈良時代にかけて、日本は遣唐使を派遣して唐の国際色豊かな文化や国家体制を学びました。これに関連して、当時の日本の都である平城京を建設する際に、碁盤の目状の区画など都市計画の直接的なモデルとなった唐の都はどこですか。(2019年 広島公立入試 類似)
- 長安
 - 上海
 - 奉天
 - 北京
- 問6 奈良時代に聖武天皇が仏教による国家の安定を目指した時期の状況について、正しく述べたものはどれですか。(2017年 福岡県公立入試 類似)
- 奈良の正倉院には、大陸との交流を示す国際色豊かな宝物が納められた
 - 桓武天皇が政治を立て直すために、都を現在の奈良市から京都に移した
 - 遣唐使が廃止されたことで、日本独自の生活様式に合わせた文化が栄えた
 - 東大寺の建立に反対した勢力を抑えるため、軍力を強化する政策をとった
- 問7 奈良時代、地方の状況を把握するために政府の命令で作られた地理志があります。各国の自然環境、産物、土地の由来や伝承などが記録されたこの書物を何とといいますか。(2026年 奈良公立入試 類似)
- 風土記
 - 日本書紀
 - 万葉集
 - 古事記
- 問8 万葉集の内容について、他の時代に編纂された和歌集と比較した際に見られる際立った特徴として適切な説明はどれですか。(2023年 新潟県公立入試 類似)
- 天皇や貴族だけでなく、防人や農民など幅広い階層の人々の歌が収録されている点
 - 紀貫之らによって、すべて平仮名を用いた繊細で優美な表現のみでまとめられている点
 - 後鳥羽上皇の命令によって、武士の台頭に対抗する公家文化の象徴として編纂された点
 - 全編が仏教の教えを広めるための宗教的な目的で構成されている点
- 問9 奈良時代の文化的な特色を示す記述として、適切なものはどれですか。当時の社会状況や、日本最古の和歌集である『万葉集』の内容を踏まえて答えなさい。(2026年 島根公立入試 類似)
- 漢字の音や訓を借りた万葉仮名を用い、農民や防人の歌を収録するなど素朴で力強い特色がある
 - 醍醐天皇の命によって編纂された最初の勅撰和歌集であり、繊細で優美な歌風が重んじられた
 - 後鳥羽上皇の命で編纂され、藤原定家らによって象徴的な美しさを追求した歌が収められた
 - 遣唐使の廃止によって生まれた国風文化の流れを汲み、ひらがなを用いた和歌が流行した
- 問10 奈良時代の743年、朝廷は新しく開墾した土地の永代私有を認める「墾田永年私財法」を制定しました。この法令が出された背景として、当時の社会状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。(2018年 山形県公立入試 類似)
- 人口が増加したことにより、政府が農民に割り当てる口分田が不足し、食料確保のための土地開発が必要になった。
 - 公地公民の原則をより強化し、すべての土地を国が直接管理することで、農民の負担を軽減しようとした。
 - 班田収授法によって口分田が余りすぎたため、余った土地を貴族や寺院に分け与えて管理を任せることにした。
 - 仏教の力で国を安定させるため、聖武天皇が全国に国分寺を建てる用地を強制的に徴収しようとした。
- 問11 ユーラシア大陸の主要な交易都市を結ぶシルクロードを経由し、西アジアの産物が日本にまで届いた歴史的背景について説明したものとして、最も適切な記述はどれですか。(2022年 山口公立入試 類似)
- 唐が西アジアに至る広大な領土を背景に国際的な文化を形成しており、日本から派遣された遣唐使がその文物を持ち帰った。
 - 室町時代に活動した倭寇が、西アジアから中国沿岸部まで届いた工芸品を略奪し、東大寺などの寺院に寄進した。
 - 江戸時代初期に幕府から許可を受けた朱印船が、ペルシャ湾付近まで直接航海してガラス細工などの貴重な品を輸入した。
 - 安土桃山時代に始まった南蛮貿易において、ヨーロッパの商人がシルクロードを陸路で通り、西アジアの特産品を日本に伝えた。
- 問12 古代の日本において、大宝律令の制定に前後して整備された土地制度について、政府が作成した「戸籍」に基づき、6歳以上の男女に「区分田」を割り当てた仕組みを何とといいますか。(2018年 岐阜公立入試 類似)
- 班田収授法
 - 墾田永年私財法
 - 三世一身の法
 - 地租改正
- 問13 奈良時代の中頃、相次ぐ政変や疫病、飢饉による社会の不安を鎮めるため、仏教の力によって国家を安定させようとする「鎮護国家」の思想に基づき、東大寺に大仏を造るよう命じた人物は誰ですか。(2023年 鳥取公立入試 類似)
- 聖武天皇
 - 天武天皇
 - 天智天皇
 - 推古天皇
- 問14 奈良時代の文化に関する説明の中に、「貴族だけでなく、兵役として送られた人々や農民の歌も収められている」という記述があります。この「兵役として送られた人々」が残した歌が収録されている、日本最古の歌集はどれですか。(2017年 埼玉県公立入試 類似)
- 古事記
 - 日本書紀
 - 万葉集
 - 風土記

答え合わせ・解説

問1	答え 1 中央政府が地方の実態を把握するため、国ごとに郷土の地理や地名の由来、伝承などをまとめさせた。	風土記は、律令制度が整う中で地方の情報を中央に集約するために作成されました。各国の自然環境や経済的資源（産物）、さらにはその土地に根付いた文化や神話を文字で記録させることで、中央政府による全国的な統治の基盤を固める狙いがありました。他の選択肢は、歴史書や戸籍の説明です。
問2	答え 1 墾田永年私財法	奈良時代、人口の増加に伴って口分田が不足したため、政府は土地の開墾を奨励しました。723年に出された三世一身の法では私有期間に制限がありましたが、この法律によって永代の私有（永久私有）が認められるようになりました。これがきっかけとなり、公地公民の原則が崩れ、荘園制度へとつながっていきました。
問3	答え 1 唐	奈良時代、日本は遣唐使を派遣するなどして、中国の「唐」の制度や文化を積極的に取り入れました。貨幣についても唐の「開元通宝」をモデルとして、708年に「和同開珎」がつくられました。都である平城京には、各地の産物が集まる東の市・西の市が設けられ、貨幣を用いた交易が推進されました。
問4	答え 1 水城（みづき）	白村江の戦いで敗北後、唐・新羅連合軍の侵攻を恐れた朝廷は、九州の防衛を急ぎました。外交・行政の中心地である大宰府を守るため、その北側に「水城」という大規模な堤防（土塁と堀）を築き、さらに周囲の山々には大野城などの朝鮮式山城を建設して、防衛体制を整えました。多賀城は東北地方の拠点であり、鴻臚館は外交使節の宿泊施設です。
問5	答え 1 長安	唐の都であった長安は、東西・南北に整然と道路が走る「条坊制」と呼ばれる都市計画が採用されていました。律令国家の形成を目指していた当時の日本は、遣唐使を通じて得たこの都市モデルを平城京や平安京の建設に取り入れ、国家の権威と統治の仕組みを整えました。
問6	答え 1 奈良の正倉院には、大陸との交流を示す国際色豊かな宝物が納められた	聖武天皇は東大寺に大仏を造営し、国ごとに国分寺・国分尼寺を建てるなど、仏教の力で国を治めようとした。正倉院はこの時期の文化的な中心であった東大寺の倉の一つであり、当時の国際的な広がりや象徴する場所です。桓武天皇や遣唐使の廃止は、奈良時代よりも後の平安時代に関連する事象です。
問7	答え 1 風土記	和銅6年（713年）に編纂が命じられた書物です。地方の自然、産物、伝承を公的に記録することで、中央政府が全国の状況を把握しようとする目的がありました。現存するものとしては『出雲国風土記』などが有名です。
問8	答え 1 天皇や貴族だけでなく、防人や農民など幅広い階層の人々の歌が収録されている点	万葉集には、北九州の警備にあたった人々の心情を詠んだ「防人の歌」や、東日本の民衆の暮らしを詠んだ「東歌（あずまうた）」などが含まれています。このように名もなき人々の素朴で力強い感情が収められている点は、後の時代の貴族中心の勅撰和歌集には見られない、この時代特有の大きな特徴です。
問9	答え 1 漢字の音や訓を借りた万葉仮名を用い、農民や防人の歌を収録するなど素朴で力強い特色がある	『万葉集』は、まだ「かな文字」が発明されていない時代に、漢字の音や訓を用いて日本語を表記する「万葉仮名」で書かれました。防人歌（さきもりうた）や東歌（あずまうた）に代表されるように、名もなき民衆の歌が含まれていることが、平安時代以降の勅撰和歌集との大きな違いです。他の選択肢は平安時代以降の文化や勅撰和歌集（古今和歌集・新古今和歌集）の説明に該当します。
問10	答え 1 人口が増加したことにより、政府が農民に割り当てる口分田が不足し、食料確保のための土地開発が必要になった。	奈良時代には人口が増え、戸籍に基づいて人々に配る「口分田」が足りなくなりました。これに対し政府は、まず723年に「三世一身の法」を出して開墾を促しましたが、私有期限があったため効果が限定的でした。そこで743年にこの法を定め、開墾した土地を永久に自分のものにして良いと認めることで、人々が自発的に田地を増やすよう促しました。この結果、公地公民の原則が崩れ、後の荘園形成へとつながる大きな転換点となりました。
問11	答え 1 唐が西アジアに至る広大な領土を背景に国際的な文化を形成しており、日本から派遣された遣唐使がその文物を持ち帰った。	奈良時代の日本は、唐の先進的な文化を学ぶために遣唐使を派遣しました。当時の唐は西アジアとも交流を持つ国際的な帝国であり、シルクロードを通じてペルシャなどの産物が流入していました。日本に伝わったこれらの産物は、東大寺の正倉院に保管され、現在も当時の国際交流の様子を伝えています。選択肢にある倭寇や朱印船、南蛮貿易は、奈良時代よりも後の時代の出来事であり、シルクロードを介した唐との交流とは異なります。
問12	答え 1 班田収授法	律令国家は「公地公民」の原則を掲げ、土地と人民を国家が直接支配することを目指しました。そのために戸籍を作成して国民一人ひとりを把握し、それに基づいて一定の田地を貸し与える仕組みを整えました。この制度によって与えられた土地は、本人の死後に国へ返還することが定められていました。
問13	答え 1 聖武天皇	奈良時代、相次ぐ災いや混乱を収めるために、仏教を重んじる政治が行われました。聖武天皇は全国に国分寺・国分尼寺を建てることを命じるとともに、その総本山的な役割を持つ東大寺に、国の平安を願って大仏を造立しました。
問14	答え 3 万葉集	奈良時代末期にまとめられた『万葉集』には、天皇や貴族の歌だけでなく、東国から九州へと派遣された防人の心情を詠んだ「防人の歌」や、農民の苦しい生活を詠んだ歌などが幅広く収録されています。これは、当時の人々の生活や感情を伝える貴重な史料としての側面も持っています。